

# 研究レポート No.885 岩手県農業研究センター

## 水稻品種「銀河のしずく」の栄養診断基準を策定しました

### 【1 「銀河のしずく」の栄養診断基準】

#### (1) 栄養診断基準

高品質・良食味で収量 540~600kg/10a を確保するため、銀河のしずくの籾数は㎡当たり 25000~30000 粒が適当です。この籾数を確保するための稲の栄養状態（幼穂形成期の栄養診断基準）は表のとおりです。

	幼穂形成期
窒素濃度 (%)	1.1~1.6
乾物重 (g/㎡)	250~400
窒素吸収量 (g/㎡)	3.5~6.0

稲体の窒素分析が必要です。

#### (2) 簡易栄養診断基準

栄養診断基準での判定が困難な場合は簡易栄養診断基準で診断します（図1）。

**簡易栄養診断値 = 草丈 × ㎡当たり茎数 × 葉色 (SPAD 値)**

ア. 簡易栄養診断値は早見表で確認できます（表1）。

イ. 具体的な追肥の対応は、表2のとおりです。

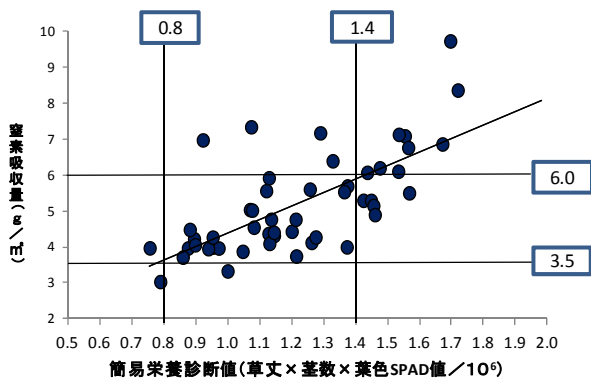


図1 幼穂形成期の簡易栄養診断値と窒素吸収量（2016、2017）

簡易栄養診断値 0.8~1.4×10<sup>6</sup> は窒素吸収量 3.5~6.0 g/㎡に相当します。

表1 幼穂形成期の簡易栄養診断値早見表

茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計 (SPAD)			
		30	35	40	45
400	55	0.66	0.77	0.88	0.99
	60	0.72	0.84	0.96	1.08
	65	0.78	0.91	1.04	1.17
	70	0.84	0.98	1.12	1.26
	75	0.90	1.05	1.20	1.35
450	55	0.74	0.87	0.99	1.11
	60	0.81	0.95	1.08	1.22
	65	0.88	1.02	1.17	1.32
	70	0.95	1.10	1.26	1.42
	75	1.01	1.18	1.35	1.52
500	55	0.83	0.96	1.10	1.24
	60	0.90	1.05	1.20	1.35
	65	0.98	1.14	1.30	1.46
	70	1.05	1.23	1.40	1.58
	75	1.13	1.31	1.50	1.69
550	55	0.91	1.06	1.21	1.36
	60	0.99	1.16	1.32	1.49
	65	1.07	1.25	1.43	1.61
	70	1.16	1.35	1.54	1.73
	75	1.24	1.44	1.65	1.86
600	55	0.99	1.16	1.32	1.49
	60	1.08	1.26	1.44	1.62
	65	1.17	1.37	1.56	1.76
	70	1.26	1.47	1.68	1.89
	75	1.35	1.58	1.80	2.03

表2 幼穂形成期の診断区分毎の対応策等

診断区分 ※	診断内容	対応策
0.8~1.2未満	十分な生育量。	幼穂形成期に窒素成分2kg/10a程度の追肥。
1.2~1.4未満	生育量やや過剰。	幼穂形成期に減肥を検討。
1.4以上	生育量過剰。籾数過剰による品質低下の恐れあり。	無追肥。

※草丈 × 茎数 × 葉色SPAD値 / 10<sup>6</sup>

#### 【簡易栄養診断の方法】

(例) 幼穂形成期時点で、草丈 65cm、茎数 450 本/㎡、葉色 (SPAD) 40 のとき

##### STEP1

表1の早見表で簡易栄養診断値を確認。上記の場合「1.17」となる。

##### STEP2

表2で対応策等を確認。上記の場合、診断区分「0.8~1.2 未満」での追肥対応となる。

### 【2 留意事項】

追肥時期は幼穂形成期です。栽培法については、平成27年度試験研究成果水稻新品種「銀河のしずく」の高品質・良食味安定栽培法をご参照ください。

**担当研究室** 技術部 作物研究室  
 〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1 TEL. 0197-68-4417 FAX. 0197-71-1083